

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第15号
2020年11月2日
編集・埴 吉成正士

「視覚支援学校の先生のお話」から:10月26日

みなさんのたくさんの感想から一部を紹介します。

■僕は今まで目が見える、見えないということについて興味がなかったし、考えたこともありませんでした。でも、視覚支援学校の先生が講話をしてくれると聞いて、どんなんだろうとずっと気になっていました。

いざ聞いてみると、どんどんと自分が知らなかったことが頭の中に響き、とても衝撃的でした。例えば、目が見えるというのは素晴らしいんだ！ということや、音声で伝える時計や、温度計があると知ってとても感動しました。なかでも一番心に響いたのは、ヘレンケラーの、「目が見えないことは不便ではあるが、不幸ではない」という名言を聞いて、とても共感し感動しました。

今まで目が見えない方たちは、見えなくてかわいそうとか思っていて、そのことを障がい者関係の仕事をしている母に言うと、「そんなことはないよ。お母さんが仕事をしているところには、視覚障がい者の方もいるけど、いつも楽しそうに話しかけてくれるよ」と言われました。

僕はこの話を聞いて、自分が間違っていたなと深く反省しました。目や耳が不自由な人も楽しく幸せに人生を歩めるんだなと思いました。 MS

「多くの人を知ることで、「一方的な決めつけ」が減っていくと思います。」

こんなふうを書いてきてくれた人もいました。見えない人は「かわいそうな人」ではない。不便ではあっても、不幸な人たちではない。この教えにガツンと頭を殴られたような気分になった人たちは多くいたようです。一方的な決めつけで人を判断することはよくあるものですが、それが正しいかどうかは分かりません。一方的な決めつけは、偏見につながる恐れがあります。これは、人権学習を進めていくうえでも、みなさんがこれから生きていくうえでも、大変大事な視点です。

本当に「わかる」ためには、交流すること、つながること。そうやって初めて、「わかる」のだと思います。あとは、あなたがどう具体的な行動に出るかです！「目が見えている人の見える世界を見ることができなくても、目が見えない人にしか見えない世界があることに気づきました。」

具体的な行動のなかで、どんな世界が見えているのか、逆に教えてもらいませんか。私たちの知らない、見たことのない世界を。

■「目が不自由な人ってかわいそう」と思っていました。が、考え方が変わりました。目が不自由な人も、そのぶん他の人が助けてくれて友達の輪が広がるからです。しかし話を聞いていると、「この社会は目が見える人のためにつくられている」という言葉が出ました。それを聞いて、確かにと思いました。まず、文字すら目が見える

人のために作られているのに、点字がない所や横断歩道はあるけど、信号はないところ、ましてや横断歩道すらないところもあります。それはちょっとどうなのかなと思います。

バリアフリーという言葉がありますが、この言葉はよく考えてつくられています。「バリア→守る、フリー→自由」というふうに、「自由を守る」という意味になります。こういう社会が増えていくと、もっと世界は平和になると思います。目が見える人も不自由な人も、同じように暮らせる社会をつくっていきたいです。 HD

「がんばる」の漢字は、みなさん書けるかな。「頑張る」ですね。でもそれを、「願生る」と書いた小学生がいたそうです。「願い生きる」という思いを込めた「願生る」。間違いですけど、×にしたくない、ステキな回答だと思いませんか。

バリアフリーの本当の意味は、「バリア→障壁」を「フリー→取り除く」です。でも、「自由を守る」も、ステキな間違いです。守りましょう。みんなの自由を。

■まず、人間が持っている情報の80%は目から取り入れていると知って、それは約80%、目が見えない人は見る以外の方法で取りに行かなければいけないのは大変だなと思いました。他にもいろいろな事件が起こっていて、途中で、「これは大変どころでは済まない」と思いました。でも、「目が見えないことは不便だけど不幸ではない」、逆に、「不幸ではないけど不便」これは一生覚えておくべき言葉だと思いました。「不幸ではない」の部分で、もし自分が目が見えなかったらと思うと、「とてもかわいそう」とか思っていたのが恥ずかしくなりました。そして、「不便」というところで、そこはサポートをしていきたいと心から思いました。

あと、目が見えない人だけじゃなくて、見えにくい人がいるということを知りました。そのことを知らない人が、目の見えにくい人を駅まで案内したが、駅でスマートフォンを操作しているのを見て怒鳴られたという事件を聞いて、本当に私たちは知らないことが多いんだと思いました。私も迷惑をかけている場面があったかもしれないと思ったので、これからはいろいろな知識を頭に入れて、これまでのように「かわいそう」とか思うんじゃなくて、いろいろな人をサポートするために行動していきたいです。 TT

県内一、聴覚視覚支援学校に近い町。だから、県内一理解が進んでいる町。のはず。でも、そうじゃない事件も、数多く感想文に書かれていました。

視覚支援学校では毎年、点字ブロックなどに関する啓発のため、小中学生が学校周辺のお店に、一軒一軒訪問をしているそうです。それでも、まだまだ当たり前になっていないこの町。私たちが教えてもらったように、知った私たちがまた伝えていきませんか。

■今日は、橋本さんのお話を聞いていろいろなことがわかりました。たとえば目が見えない、見えにくい人が近くにいると、交通ルール(信号や道路など)を守ってほしいということ、追い越すときは、「追い越します」と言うことなどです。お話の中で一番印象的だったのは、目が見えない人たちが困っているときに、「何かお手伝いできることはありますか」と声をかけることです。何回か目の見えない人に道で会ったことがありますが、声をかけることができていないので、勇気をふりしぼって人の役に立ちたいです。

2番目は、視覚障がいのことがわかるサイトや本のことです。最初は視覚障がいのことわかりませんでした。でも、この本やサイトを見てみると、詳しくなるかなと思うので、検索したり見たりしたいです。

これから私たちにできることは、車や自転車を点字ブロックに置かないこと、車のハッチバックを開けたままにしないこと、いつもと違うところがあったら教えることです。「世の中にはいろいろな人がいる。そのことを心に留めて大人になってほしい」という橋本先生の願いを胸に、自分ができるところをしていきたいです。

最後に質問があります。追い越すときに言う「追い越します」の声は、どのくらいの声が良いのですか？

KK

*

■僕は視覚支援学校に入ったことが何度かありますが、設備や施設の工夫が自分が思った以上にされていたのでビックリしました。ただし当時は、不自由な人たちの気持ちなどろくに考えたこともありませんでした。目が見えない人たちと交流会もしましたが、目が見えない人たちは、「その状態で先を生きていけるのか…？」と今回の説明を聞くまでは心配していましたが、先生が紹介してくれたヘレンケラーの「目が見えないことは不便だけど不幸ではない」という名言を聞いて、僕は「なるほど」と思いました。なぜなら目や耳が不自由だったとしても、世界にはいろんな人間がいるから、不自由な面でも自分自身に受け入れられれば、自分のありのままを出せると思うからです。

他に本やマンガなども先生が紹介してくれなければ、もっと不自由な人について興味をもていなかったかもしれません。

KM

各クラスの図書委員のみなさん！出番です！今回紹介していただいた本、マンガなどが購入できないか、図書委員会で議題に出してみてください！可能となるかどうかは分かりませんが、ヒロシマの原爆で亡くなった佐々木禎子さんの友達取り組み、平和の子の像ができたように、みなさんの力で働きかけてみてはどうでしょうか。先生が準備するのではなく、みなさん自身の活動の成果として、図書室に置いてもらえると、みなさんも読んでみようと思えるのではないのでしょうか。秋の夜長にいいですよ、読書。「以前、目のまったく見えないお笑い芸人の方がいました。その人は白杖を持ってステージに上がり、目が見えない人の気持ちを面白く伝えていました。こういうふうに若い人からお年寄りまでたくさんの世代に伝えていくことが大切だなと思いました。」

自分の「目が見えない」をハンディとせず、自分のやりたい「お笑い」の世界に飛び込み挑戦している人もいます。本やマンガや、表現方法は様々です。みなさんにも得意なことがあるはずですよ。見えないことがどういうことか、そのことを通じて、自分なりの「伝える」を試みてはどうでしょうか。

「追い越します」の声ですが、目をつむり、相手の立場に立って考えてみてはどうでしょう。そうすれば、自ずと答えが見つかるかもしれませんよ。

■私は一度、点字ブロックを歩いている人を見たことがあります。その人が、点字ブロックに自転車が置いてあって困っていたら、その人の近くにいた人がのけていて、優しい人だなと思いました。今思うと、「なぜ私はあのときのけなかつたのだろう」と思いました。そして次そんな人がいたら、手助けしたいと思いました。

次は、音響信号についてです。マルナカの近くの信号は、夜7時から鳴らないのを初めて知りました。徳島駅のはボタンを押すと、いつでも鳴るのも初めて知りました。これからは、もっと目の不自由な人たちや、それに合った物などを知っていきたくたいです。

どこの都道府県にも視覚支援学校はあるらしいです。そのような学校があれば、目の不自由な人が安心できる場所が一つでもあるので、そのような人たちも安心して学校に通えると思います。今回はこのようなことが聴けて良かったと思います。 KS

音響信号については、多くの人がふれていました。「…「何かお手伝いできることはありませんか」という魔法の言葉を教わったので、これからの生活に生かしていきたいです。他の人にも思いやりの心を持ちたいです。」

「魔法の言葉」…手伝いを必要としないのなら、それはそれでいいことです。けど、それは訊いてみないと分かりませんよね。使わなくてもみんなが持っている魔法。それが本当に魔法かどうかは、使ってみないと分かりません。ぜひ使ってみてはどうでしょう。

2016年、障害者差別解消法という法律がスタートしました。可能な限り、障害者と健常者が共に生きていけるような社会にしていこうという法律です。支援学校も障がい者の心のよりどころとして大切ですが、同時に、子どもたちが地元の小中学校に通える社会にもなっていかなければなりません。どちらかといえばみなさんは受け入れる立場かもしれません。さて、今のみなさんは、「どうぞどうぞ！ウエルカム！共に学ぼう！」となれているのでしょうか。心の準備はできているかい。



たくさん感想文が寄せられましたが、これだけしか載せられませんでした。ごめんなさい。

11月2日は、盲導犬ユーザーの方に来ていただきます。どんなお話が聞けるのか、またみなさんとどんなやりとりがあるのか、今から楽しみです。大切なことは、実際に交流し、つながることです。

そしてそれらの学習を通して、11月12日には、あらためて学年みんなが集い、「障がい」ということを通じて、それぞれの中にある思いを語り合い、学習を深めていければと思います。